造形体験の中で得たことを友だちと共有しながら，表現の追求ができる子どもの育成

－　小学２年「かざして・うつして・きらめいて　影にうつしたときに　すてきに見える窓をつくろう」の実践から　－

１　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

低学年の子どもたちは，図工の時間に限らず，絵を描いたり，物を作ったりすることを楽しんでいる。２年生の子どもたちも物をつくることが大好きで積極的に活動に参加する姿が見られる。２年生はこれまで身近な素材を使って製作・造形活動を行っている。また，クレヨン・クレパス，クーピーや絵の具で思いっきり描いたり，粘土で動物をつくったりなどしている。一学期では，段ボールを加工したものに自分の顔を描いたり，班でテーマを決めて粘土作品を製作したりしている。粘土でパーティーへ行く動物を作る活動では「とらがぼうしをかぶっているといいなと思ってぼうしをつけたよ」といったテーマに向けてこうしたいと思い製作をする姿が見られる。また，「そのもようはどうやってつけたの？」という質問をしたり，「ケースにおしつけたらできたよ」と方法を教えたりという姿が見られる。近くの友だちと会話をする中で，友だちの考えを取り入れたり，作り方を教えたりする姿や，班での活動になると班の仲間と相談しながら，一つの作品を作り上げることもできる。しかし，作りたいもの，表現したいものをどういった方法で製作すればいいのか表現に困る子どももいる。そういった子どもにも自分の発見や気づきを伝えたり，友だちの考えや方法を聞いたりする中で，自分の求める表現を見つけ，追求することができるようになってほしいと考えている。

(2) 本題材の目標や内容と図画工作・美術科で考える思考力・判断力の育成との関わりについて

図画工作科では,造形活動や鑑賞活動を通して自分や他者の思いをつかみ伝え合う学び合いの中で，自分らしい表現を追求する姿を育てることに重点を置いている。本題材は，影を映した時に，「きれいだな」「おもしろいな」と思える窓を製作する活動である。影の形や，透過光による影（光）に色をつけることを通して，自分の作品と向かい合ったり，学級全体での学び合いを取り入れたりすることで目的に応じた自分なりの窓を製作することをねらいとしている。

本題材では，形や色を考える際に試行錯誤したり，友だちの様子を知ったりすることで自分がつくり出したいものはどうすれば表現できるのか，思考し判断することができることをめざしている。さらに，自分の気づきを発表することで，改めて自分の体験を整理することや，友だちに伝わるにはどう表現すればいいのか言語活動の面においても表現する力が身に着くと考えている。また，光を用いた造形活動にすることで，影という身近な自然現象にふれ，普段の生活に隠れているおもしろさや，美しさを感じ取り表現することができると考えている。

(3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合いの場面の構想について

思考力・判断力・表現力を育成していくために，本題材では，窓を製作していく過程で，子どもの気づきが生まれるよう，試しとして製作途中の物を実際映してみるという時間を設けた。つくっている時には気づかなかったことにも目がいきより作品への追求が深まったり，完成への意欲づけになったりすると考えた。さらに，試すという経験を繰り返す中で，気づいたことを全体に発表する時間を授業の中に設定するように考えた。発表という一人ひとりの考えや気づきを学級全体の場で出し合うことで，他者の考えや追求を知ることができる。友だちの気づきや考えを知るとことで，自分の作品に取り入れる姿が見られ，学び合いの場となるのではないかと考えるからである。意見や気づきの共有化を行うことで，自分の表現方法の幅を広げることができ，そこから自分の求める表現にはどういった方法がいいの

か思考・判断し表現することにつながっていくと考えている。そのためにも教師が，子どもの言動に対して問い返しや認める声かけをすることで，子どもの考えを広げ，作品への表現に繋がるようにしていくようにする。

2　展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は，学級全体の学び合いの場面）
1	影をうつしてみよう	1	身近な物の影をうつしてみるとどんな風に見えるかイメージを広げる
2	窓の形をつくろう	2 3 4	ダンボールを切って,窓の枠や穴の形をつくるうつした時どの様にうつるか確かめながら,形を工夫してつくる
3	影に色をつけよう	5 6	セロファンを使い影に色をつける ◇セロファンの写り方で気づいたことを発表したり，友だちの気づきを受けとめながら作品に取り入れたり，工夫したりしてつくる
4	窓の影をうつしにいこう	7	できた窓をもって外にうつしに行くどんなところ，どんな風にうつるかな

3　授業の実際

(1) 身近なものを影に映してみよう

窓をつくる前に，影に映すとはどういった感じなのか，どのように見えるのかを体験する為に，事前に身近なものの影を映す活動をおこなった。筆箱や定規，下敷きといった普段学習で使っているものや，教師が用意した透明カップや紙カップ，クリップなどを使って影映しを楽しんだ。初めは，一つひとつの影を映していたが，そのうちに，組み合わせながら影を映し，「なにに見えるかな。」「ロボットに見えたよ。」「くまになったよ。」など，友だちと話をしながら映した形から見立てをする姿が多く見られた。

「ね～ね～何に見える？」

「あ！すきとおったみどり色だ。」

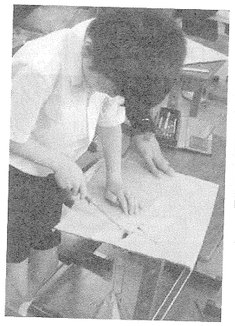
(2) 窓のカタチを考えよう

影映しを楽しんだ後，窓作りを始めた。まず，一枚の段ボールを渡し，影を映した時に，おもしろいな，すてきだなと思える形の窓をつくろうと呼びかけた。事前におこなった影映しも参考にしながら，どんな形の窓にするか考えてみようとした。窓の形とは，枠全体や，窓の穴形についてである。形が分かりすいように単純な形状にすること，大きくするとつくりやすいとアドバイスをした。子どもたちは動物の形をくりぬこうとしたり，丸や四角，三角といった形をいくつもくりぬいたり，音符などテーマ性をもって窓作りをする姿がみられた。

段ボールを加工するために段ボールナイフを用いたが，はじめはうまく扱えず苦戦する姿が見られた。しかし，しばらくするとコツをつかんだ子どもが手の動かし方を教えたり，段ボールを抑えるのを手伝ったりするなど助け合いながら活動をする姿が見られた。

ある程度窓の形が作れたところで，影を映す時間をとった。どのようにできてきているのか確認する時間をとることで，自分がどれだけ作り進めているのか確認すると共に，友だちの工夫や取り組みもみてとれることができるからである。子どもたちは，お互いの影を見合う中で，この形はこういった意味だよと説明したり，相手のよさを「おもしろいね。」「かわいいね。」とほめあったりしていた。

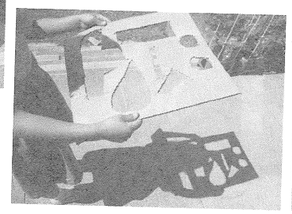
また，自分や友だちの進度を知ったり，友だちの取り組みを見たりしたことで，窓の穴を増やしたり，形を丁寧に切ったりするなど製作により真剣に取り組んでいた。

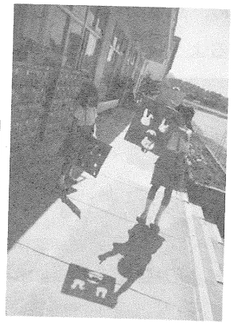


←しっかりおさえて切るよ

どんな風に見えているかな？

→なんか顔に見えるよ！





(3) 影に色をつけよう

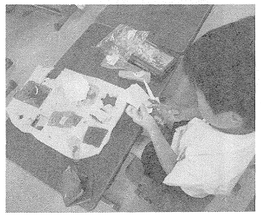
次に，窓の形ができてきたら影に色をつけることを伝えた。影に色をつけるとは，透過光により，無色の光にセロファンの色が映るようにすることである。子どもがイメージしやすいよう影に色をつけると表現している。自分の作った窓の形に合うようにセロファンを選び貼り付けていく。その際に，導入時の影遊びで，子どもの透明な色つき定規を影に映した時，色が付いて見えたという発見を取り上げた。そうすることで，影にも色がつくのだということを学級全体で確認し，イメージがもてるようにした。はじめは，形に合わせて一つの色を貼る子どもが多かった。しかし，窓の大きさにセロファンが合わず，どうしたらいいのか悩む姿があった。教師が，「どうしたらいいのかな？」「どうしたい？」と尋ねると，しばらく考えてから，似たような色のセロファンを使うことや，いくつかのセロファンを組み合わせて使うことなど自分なりに課題を解決していた。

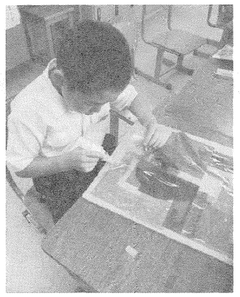
窓の形を作った時と同様に，実際に影に映す時間をとった。映してみると思ったような色では無かったり，重ねてみると見えない色があったりするのがわかった。そういった気づきを共有化することとで，自分の経験だけでなく，友だちの経験も交えながら作品づくりにいかせると考え，時間をとり発見を発表しあうことにした。「試している時に気付いたこと，伝えたいなと思ったことを教えて？」と問いかけると，色や形についての気づきを子どもたちはどんどん発表した。色については，「水色と白や黒は，色がないよ」と言う子がいた。「それってどういうこと？」と問いかけると「黒になるよ。」「穴が見えなくなるよ。」と説明をしてくれた。他にも「透明なものでもたくさん重ねると見えなくなる。」という発言があり，「じゃあ重ねすぎたらいけないんだね？」と確認のように問いかけると「三枚なら大丈夫。」「四枚だとちょっと映りにくい。」「二つ重ねると色が変わって見える。」など一つの発言からそれぞれの子どもが感じたことや発見したことが次々と出てきた。窓の形については，「まどの穴のところに，指を置くと形が変わってハートになるよ。」「切った形より，うつした形が小さく見えるよ。」などがあげられた。このやりとりを終えると色の重なりや，付け加えによる形の変化に子どもたちも注目するようになっていった。

そうすると,色をつけていくと同時に形についても変更をしたいという子どもたちも出てきた。子どもたちは，共有した気づきや友だちの取り組みのよさを自分の作品にいかそうとしていた。窓の形だけ

だった子も，窓枠全体の形を変えてみたり，黒のセロファンは黒く映ることをいかして，目にしたりするなど表現への追求がうまれてきていた。

学び合いのよさとして他者の取組を知り，共有することで自分では気がつかなかったことに気づくことができたりするよさや，自分が発表することによって友だちが取り入れてくれるといったよさがある。その中でも特に，自分らしい表現を高めていくよさがあり，それを追求する意欲を育てていくことが，図画工作科・美術科で取り組んでいくところである。子どもたちが，学び合うことで，自らの追求を深め，意欲を高める中で見出したよさを子ども一人ひとりが自分の造形活動へとつなげていくことができるように，整理し広げたり，深めたりできるような問いかけや，認め，うながしを行った。





(4) できた窓を影に映してみよう

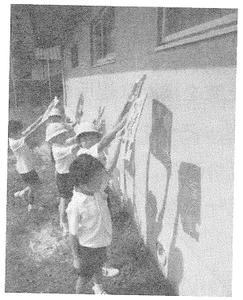
窓が完成したら，窓を校庭に持って出て思いっきり映した。校庭で映すということ以外は，こちらからは特に設定をせず，子どもたちが思うように動ける時間とした。それまでは，天気が悪くなかなかはっきりと影を映すことができなかった。そのこともあり，子どもたちは影をうつせることを楽しみにしていた。そして，影うつしの開始を伝えると子どもたちは早速友だちと一緒にいろいろなところへ移動して影を映し始めた。子どもたちが影をうつした場所とうつしてみて気づいたことやつぶやきをまとめてみた。

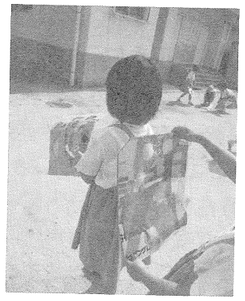
子どもたちが影を映した場所	子どもの気づき・つぶやき	教師のはたらきかけ
・校庭の真ん中	「形がはっきりみえるよ」「影がカブトムシのかたちにうつったよ」	どんな風に見える？ 試しの時と比べてみてどう？
・砂場	「砂のでこぼこで影もでこぼこに見える」 「（影が）飛んでいるみたい」「空飛ぶじゅうたんみたい」	どんなかんじがする？ ほんとだね。おもしろい。
・更衣室の壁	「茶色の壁でもはっきりうつるよ」	他の場所と比べてみてどう？
・掲揚台	「階段のところで，かげぶんれつして見える」 「一だん一だん分かれてるからぶんれつしてるんだよ」	それってどういうこと？
・サッカーゴール	「みどりの細いところは映らない。でも白いところ（ポール）はちょっとうつるよ」	そんなところにもチャレンジしたんだ！ すごいね！
・友だちや自分の服	「洋服にもうつるよ」「スカートに映ってもようみたい」	きれいだね！すてきだね！ 他の友だちにも見せてあげたら？

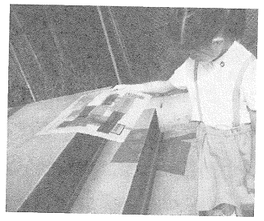
また，友だちと一緒に影をうつす中で，場所だけでなく映し方にも工夫がみられるようになった。

子どもの映し方	子どもの気づき・つぶやき	教師のはたらきかけ
・窓をもってはしる ・友だちの窓とよこにならべてみる ・友だちの窓と重ねてみる	「影の色がかわってみえたよ」「鬼ごっこしているみたい」 「二つで一つのまどみたい」「（両開きの）まどみたい」 「模様がかわったよ」「色もかわったよ」	どうして走っているの？ おもしろいことをしているね？ どうして並べているの？ 重ねてみてどうだった？

このように子どもたちは友だちと一緒に影を映しながら，場所であったり，映し方であったり，自分たちのつくった窓で，色々な影の映し方を見つけ，楽しんでいた。そのなかで，教師が子どもの取り組みを価値づけたり，問いかけをしたりすることで他にどんな映し方があるか，どうするとおもしろくなるかなど友だちと一緒に動きながら，次の映し方の工夫や発想，チャレンジへとつながっていた。


壁にうつすとどんな風に見えるかな


友だちの制服にもうつるかな


「影がぶんれつしたよ」

「見てみて二つで一つのまどだよ」

4　成果と課題

「砂場にうつすと影が飛んでるみたい」

今回の活動では，活動の区切りで子どもたちの発見を出し合う場を多く設定した。また，途中で作っている物を実際に映してみるという時間ももたせるようにした。

学び合いの場として，子どもたちの発見を発表しあう場を設けることで，お互いの発見を共有し合い，作品へと生かしてほしいと考えたからだ。実際，子どもたちは自分たちが見つけた事を積極的に発表し，それを自分の作品に生かしている姿がみられた。また，友だちの考えや，気づきを共有したことにより，どの様に加工すると映る影が変化するのか，どういったセロファンの組み合わせをすると色に変化が生まれるのかといった表現を深めるきっかけとすることができ，学び合う場として成立したといえる。活動中は，どの様な形にするのか，色の組み合わせや貼り方をどうするかといった製作の仕方や，どのタイミングで試しに映しに行くか，何度試しに映しに行くかなど子どもたちにまかせた。自分の感覚を大事にすることで，より作品づくりへの意欲が高まると考えたからである。実際に自分のタイミングで映しに行ったり，気になるところは手直しをしては映しと何度も映しに行ったりする姿が見られた。このことも，自分の表現を深めようとする子どもの意識を高めることにつながり，学び合う場が成立する一つの基盤となったと考える。

また，鑑賞の活動では，「いっぱい映してみよう」という声かけから，子どもたちは自分たちで映し方をみつけ始めた。地面や壁に映したり，草むらで映したりすることは試してみるだろうと考えていた。

しかし，子どもたちは，砂場や制服といった映す場所や，さらには，走ってみたり重ねてみたりと映し方もみつけていった。できた作品を映してみるという一つの活動から「こうしたらどうなんだろう」と子どもたちの中から追求する姿勢をみてとることができた。学び合いが生まれた場面であるといえる。

> 今日，かざしてうつしてきらめいてをやったよ。オレンジが赤にみえたよ。あと，かいだんでかげをうつしたら，ぶんしんをしているようにみえたよ。なぜそうみえたかというと，上と下にわかれたからだよ。でこぼこしたすなのうえをあるいてかげをうつすと，ゆれているようにみえたよ。こんど，じっけんしたいこがあるよ。それは，水にかげをうつしてみることだよ。わけは，きっときれいにみえるかもしれないからだよ。いろいろなことがわかってよかったよ。

児童Ａは，窓づくりの活動を始めた時から，形や色にこだわりをもって製作を進めていた。形づくりでは，たまたま開けた窓の穴の位置が影になると顔のように見えることに気がついた。その後，意識して顔にも見えるように全体の形を作り替えていた。何度も映しに外へ出て中に戻り作り直したり，付け加えたりと試行錯誤を行う姿が頻繁に見られた。試し映しができたことで，自分の作品・表現への意識が高まり追求する姿となったといえる。日記にも見られるように，Ａ児は作った窓を様々な場所へ持って行き影映しをしている。そこで，友だちと一緒に発見をしながら，次はどこへ，どうやってと次への学びへと進んでいる。そして最後に，あらたにめざすところを見つけている。「今度は，水に映すとどうなるかやってみたい。」と授業を終えてもさらに知りたいという気持ちをもっている。これは，学びが成立したことで生まれた感情であったといえる。

子どもの取り組みを深めるための，学び合う場が成立するには，共有する場面の設定と教師の支援が重要になってくる。今回，共有する場として，活動の間や，授業の終わりに，気づきや発見を発表する場を設けた。実際，いくつもの子どもの気づきを共有することができた。しかし，授業の中で，意見を拾い上げるだけで終わりがちになっていた。ただ，気づきを共有するのではなく，自分の製作にいかしていこうと思える場にしなくてはならない。製作活動での姿やつぶやきや質問を聞きながら，子どもの気づきを拾い上げていくか，変化する子どもの様子を的確にとらえていく必要があった。また，他の子どもにどうつなげていくのか，発問の設定はどうすべきかも子どもの様子を的確にとらえて行っていかなくてはいけなかった。

今回の取り組みでは，当初第３次の製作活動に学び合いの場を設定していた。実際に，子どもたちはとても積極的に，活動に取り組み，自分なりの表現を深めようとしており，第３次を学び合いの場とすることができた。それに加え，第４次の鑑賞でも学び合いの場が生まれた。子どものつぶやきや気づきに対して「どうしてそう思ったの？」といった問いかけや「なるほど，おもしろいね！」といった認める教師の声かけをおこなった。また，製作活動の合間や授業の終わりに気づきを発表する場を用意したり，子ども同士で動く時間をつくったりと子どもの考えを共有しやすい環境を設定することで，製作活動だけでなく鑑賞場面においても追求する姿を育てることへとつなげることができた。活動後のふりかえりでは，児童Ａのように，影をうつして気付いたことを沢山書いていたり，影に色をつけた時の不思議さや気づきを書いたりしている児童がたくさんいた。それだけ，子どもにとって今回の活動は意欲的に取り組める活動となったといえる。今回の活動での子どもの姿や，児童Ａのように，積極的に学び，またその単元だけで終わるのではなく，さらなる学びへとつながっていくように，子どもたちへの関わり方，場面の設定を行っていくことが大切であると感じた。　　（文責　矢野　美穂子）